看護医療
類型通信

つながり

令和８年　11 月 11 日（水）　第 19 号
尼崎小田高校　看護医療・健康類型
福田秀志

進路実現がゴールではない。その先を考える！

10 月 27 日(火)の「看護医療総合」の授業では、看護医療・健康類型 5 期生の齊藤瑞紀さんの講演と同じく 5 期生の卒業生によるスピーチを実施しました。齊藤さんは幼児期に大病を経験したことで「人生は 1 回。やりたいことをしよう」と考え、100 近い「やりたいことリスト」を作成。大学 2 年の冬、リストの一つヒッチハイクで九州を一周。その際に宮崎県で出会った群馬県のモルタル造形師との縁から、学校法人群馬総合カレッジの理事長と意気投合し、翌年、前橋市に移住して国際産業技術専門学校で働き始め、夜行バスで大阪の大学に通いながら、2026 年 3 月に卒業しました。仕事の傍ら、小学生から 80 代まで幅広い世代が集い夢を語り合うイベント「MIDNIGHT SUN」を主催しています。講演では、こうした経験をもとに、

自分の「原点」を意識すること、そして壁にぶつかったときには原点に立ち返ることの大切さ

この二つを伝えてくださいました。また 5 期生の先輩方 5 名(看護師 3 名、理学療法士 1 名、近鉄の車掌 1 名)からは、その仕事を選んだ原点、実習や現場で直面した壁、それを乗り越えた力について話していただきました。

今回の講演を企画した背景には、看護師をはじめとする医療系大学・専門学校が一部を除いて入学しやすくなっている一方で、入学後に壁にぶつかり、途中で辞めてしまう卒業生がいる現状があります。そこで、医療職に就くことをゴールとするのではなく、その先に「どのような医療人になりたいのか」を考えてもらうことを目的としました。自ら行動して夢を実現してきた齊藤さんの生き方や先輩方の経験に触れ、自分の原点や価値観を言語化することで、医療職に対する主体的な意識を高めることをねらいとしました。生徒の意見表明からは、「看護師になることだけをゴールにしていた考えが変わった」「大学合格の先にある実習や現場について考える機会になった」といった意識の変化が見られました。齊藤さんのヒッチハイクの挑戦や、何十回も夜行バスで大学に通い続けた話からは、目標の実現には**自ら行動し、諦めずに挑戦し続けること**が大切だと学んだようです。また、先輩方が共通して語った**「相談できる人をつくること」の大切さ**を、自分がこれから直面し得る壁と結びつけて考える記述も見られました。さらに、家族の病気や読書体験といった自らの原点を振り返り、「心に寄り添う看護師」「家族も支える管理栄養士」など、具体的な医療人像を描くことができました。生徒一人ひとりが自分の将来と真剣に向き合う、すばらしい時間となりました。齊藤さん、そして 5 期生の皆さん、ありがとうございました。

福田　秀志



